

# ハロー フレンズ



2021年5月号(年3回発行) 第156号

## 「つくる責任 つかう責任」とFICEC

SDGsは「Sustainable Development Goals」の略称であり、17の目標を掲げて「だれ一人取り残さない」社会づくりをめざすものです。

SDGsの12番目の目標として「つくる責任 つかう責任」が設定されています。この「つくる責任 つかう責任」では、食べられる食品を捨ててしまったり、貴重な資源を無駄にしないことを提案しています。

フードバンク活動は、アメリカから始まりました。1967年、まだ貧困の問題が残る中、まだ食べられる食品がスーパーなどで大量に廃棄されていました。

そこで、1967年に世界初のフードバンク団体「セントメアリーズフードバンク」が誕生したと言われています。1976年には「セカンドハーベスト」が設立され、1984年にフランス、1990年から2000年代前半に南アフリカ、アフリカ、アジアへと拡大し、日本では2002年に「セカンドハーベスト・ジャパン」が誕生しました。

そして2013年、東日本大震災をきっかけにフードバンク埼玉の活動が始まりました。

私たちにできることのひとつが「フードバンク活動」だと思います。フードバンクは「もったいないからありがとう」をスローガンに食品ロスの削減や有効(福祉的な)活用するものです。

FICECは今年の10月から「フードバンクFICEC」を開設しました。「食品ロス削減」の取り組みに参加し、「食べ物に困っている外国人」への提供を始めました。この6か月間で25か国・290人(延人数)の方にご利用頂きました。

この取り組みは、「困っている人を助ける」というFICECのもともとの活動領域でもありますが、世界的なSDGsの取り組みを体現していることにもなります。

ただ、この活動はFICECのスタッフの努力だけでは「継続」できません。外国人を含むFICECの周りにいる皆さんのご協力が必要です。

フードバンクFICECは小さな取り組みですが、みんなの協力で継続させ、大きくしていきたいものです。

(理事 永田信雄)



つくる責任  
つかう責任

もったいないから  
ありがとうへ

Sustainable  
Development  
Goals

FOOD BANK FICEC  
**フードバンクFICECの様子**

「ミネラルウォーター1本、プロテインミントチョコレートバー2本、お米1袋、さんま缶詰2つ…」  
 「じゃ、ここにサインしてください」「ありがとうございます」...

センターでは、ほとんど毎日生活相談や日本語学習のために来所する外国人とスタッフの間でこんなやりとりがあります。

昨年10月から三菱財団と中央共同募金会の支援を受けて「NPO法人フードバンク埼玉」と共同で「フードバンクFICEC」を行っています。現在日本全国に140ものフードバンクの団体があります。埼玉労福協が東日本大震災時にさいたまスーパーアリーナに避難して来た人たちにお菓子の差し入れをしたことがきっかけとなり、現在は「NPO法人フードバンク埼玉」として子ども食堂、子育て応援フードパントリー、生活困窮者支援、その他支援に関わる多くの団体にフードバンク食品を提供していて、外国人支援団体であるFICECも提供先の一つです。

段ボールで運び込まれる食品をきれいに並べて、賞味期限を確認し、来所した一人一人に声をかけて商品を手渡しています。

フードバンクと併設して季節の衣類やリネン類、子どもの学用品なども置いてあります。ランドセルやリコーダー、鍵盤ハーモニカ、習字の道具など学用品として購入しなくてはならないものは色々あり、これまでも沢山寄附をいただいて助けられてきました。特にランドセルは人気で多くの外国人家庭に引き取られています。もし皆様のご家庭に不要となった学用品や文房具などがありましたら、ご寄附いただけるとうれしいです。



各国語で無料と書いてあります



人気のランドセル

## すべての努力は、自分のため サンチェス リーアン

ふじみの国際交流センターは、日本の小学校に通う手続きの時に市役所から紹介されて知りました。私達だけでなく、両親にも日本語を教えてくれて、家族ぐるみで付き合いをしてきました。家に届く手紙等の説明や書き方を教えてくれ、親身になって相談に乗ってもらいました。小学校に入る時は、妹と私が苦労しないようにと学校に知らせくれたので、日本語担当の先生を学校に配置してもらえました。

フィリピンから来日してすぐの頃は、日本語が全く分からないので学校に行くことが苦痛で、よく休んでいました。でも先生達のおかげで、理解が少しずつできるようになりました。また、自分の考え方も変わってきて、努力しないと苦労するのは自分だから、頑張らないといけないなど、前向きに考えられるようになりました。一番印象に残っていることは音読で、一度でもつかえたと初めから読まされて、辛く大変だった思い出があります。ただ、それがあったから学校の授業で自信を持って発言できるようになったのだと今では思います。

子どもクラブでは、学校で使う教科書やプリントを理解できるように訳してくれ、ふりがなをふってくれたのでとても助かりました。学校の長期休暇中も、勉強を教えてくれたり学校から出された宿題と一緒にやってくれたりしました。小学生の時は日本語学習が中心でしたが、中学校に入ってから、各教科を中心に教えてもらうようになり、そのおかげで私は学校の授業についていけました。中学生の時の補助学習は土曜日だけだったので、当時所属していたバレー部の練習を休んで通ったりしていました。

高校では大分日本語が理解できるようになっていたのので、作文や難しい国語の授業を主に教えてもらいました。その他、バドミントン部での部長としての悩みやクラスでの問題など、何かと悩みが増えてきて、そのようなことも相談に乗ってもらいました。

高校二年生の時に、徳島県にいる叔父が健康診断で肺に問題があると言われました。その時、(子どもクラブの先生が)病院の先生や叔父の勤めていた会



社の社長に、両親の代わりに電話をしてくれてとても助かったことがありました。転居した際には、不動産屋から身元保証人は日本人にして欲しいと言われましたが、その保証人を快く引き受けてくれたことも助かりました。

また、早い時期から高校卒業後の進路について色々と相談に乗ってもらい、学校選びや書類の提出など様々な事を助けてもらいました。そのおかげで、この春からグランドスタッフの専門学校に通えることになりました。

子どもクラブに通っていたおかげで、苦労は沢山したけれど、日本語はもちろんその他の日常生活の行動にも自信が持てるようになりました。一人で色々な場所に行けるようになったし、学校の課題等にも自主的に取り組めるようになりました。

もっと日本語を上達させて、いつか私もクラブに通う子ども達を教えられるようになり、今までの恩返しをしたいと思います。



# 「日本に来た外国人が笑顔で過ごせる」にかかわりたい

神田 順子

「ふじみの国際交流センター」の存在は知っていましたが、一回も活動に参加したこともないままに、理事を引き受けました。

お断りするべきでは…と、思いつつ興味関心が勝ちました。

というのも、日本人である私が、オロオロドキドキしないで暮らせるようになったのが大人になってからでした。

小さいころからみんな一緒にが苦手で、じっと周りを観察してから動き始めるそんな子どもは単独行動するしかありません。そして自分なりにやりたいと、教えてもらうのを嫌がったりする子どもは「素直じゃない」と言われ続けて育ちました。そうやってあちにぶつかり、こっちにぶつかりやってきて、いつの間にか、他人に言われる「変わってる

ね!？」が誉め言葉に聞こえ、笑っていただけるようになりました。そうすると、誰とでも話すこともできるようになりました。

だから少数派が生きやすい、同じ人間だからこそ一人ひとりの違いを認め合って暮らせる場所になればいいなと思っていますが、なかなか難しいのが現実です。

そんな中、日本にいらした外国人が笑顔で過ごせるように…との石井代表の言葉と、FICECはそれを実現させようと活動し続けている団体と思います。

そこに関わられるなら、引き受ける!

そう思ったのですが、昨年11月から参加して、分からないことだらけです。出来ることを探しながら、早く足手まといにならずに動けるよう努力します。どうぞよろしくお願ひいたします。



第3回

フィリピンの手作りおやつ②

## ミキさんの「ギナタアングハロハロ」

GINATAANG HALO HALO

### ○材料:

サツマイモ…中1個

さといも……5個

バナナ……3~4本(フィリピンのモンキーバナナ、セニョリータ使用。小さくて皮が薄いもの、固めを使うと良い)

それぞれを食べやすい、かつ同じサイズに切る

白玉……1パック

ココナツミルク 400cc 下に沈殿しているのを入れる前によくかき回す

砂糖……3/4カップ

オプション:小さいタピオカ(事前にゆでておく)

### ○作り方:

①鍋に400ccの水を入れて沸騰させる

②ココナツミルクを200cc入れる、硬いものから入れる。さといも(タピオカが生なら一緒に入れる)→サツマイモ→白玉→バナナ→タピオカの順に入れると良い。



③煮えたらココナツミルクの残りを加える

砂糖は甘すぎると飽きるので、味を見ながら少しずつ入れてください

白玉は煮すぎると膨れて大きくなるので注意してください。GINATAANGはタガログ語でココナツ、HALO HALOは混ぜるという意味です。ココナツミルクのお汁粉のようなものです。

## いつも応援しています

西山正浩

先日、ある演劇の会場でナナエさんにお会いした。たしか6年前に上福岡のセンターへおじゃまして以来のことだ。「西山さん久しぶり！元氣だったですか？」あのころと変わらない若々しい笑顔と独特の日本語で話しかけられると長い不義理の後ろめたさはすうっと退き、代わって大井町時代の記憶がドツと押し寄せてきた。

ナナエさんとの出会いは30年前にさかのぼる。配属された公民館の日本語クラスがきっかけだった。何も知らない、わからない不勉強なぼくはさも頼りなげな職員に映ったことだろう。今振り返っても申し訳ない気持ちでいっぱいになる。だがぼくは幸運だった。日本語クラスの中心的存在、というより町の公民館活動を牽引するひとりだったナナエさんの傍らで社会教育のイロハを学び、刺激をもらい続けることができたからだ。正直言ってあの頃は公民館という学校に通って給料をもらっていたようなものだった。分け隔てのない対等な眼差しと深い思いやりを持ち、何より聞き上手の人だった。抜きんでた行動力を礎とする“見送りの三振より空振りの三振”スタイルに時々ヒヤヒヤさせられながらも必死でくっついていった。よく覚えているのは日本語クラス夜間部の開設を決め、2人でミニ工業団地な

どに赴きチラシを配って歩いたこと。ナナエさんの本気がいつのまにかぼくも伝染していた。それから間もなくして当時の2市2町と県の共催で「アジアと日本を考える講座」が開かれた。この取り組みが長年の夢だったセンター設立へと結実した。

人間石井ナナエの深過ぎる懐はたとえば思想信条という領域を軽やかに飛び越えてゆく。右から左までぐるりすべての人びとを包み込んでしまう。その証拠にこの人にかかれれば気がつくともみんなが輪になって手を繋いでいるのだ。こういう場面に何度も立ち会ってきた。だいたいぼくのように、人をみれば「アイツの立ち位置はなんだ？」などとすぐに値踏みを始めるケツの穴の小さい奴とはスケールがまるで違う。人と人を繋ぐ名人上手ナナエがいるところ、いつもそこには「みんないっしょに生きよう」というメッセージが立ちのぼる。そうそう6年前に訪れたセンターにもこのメッセージが変わらず満ち溢れていた。

なんだか結局石井ナナエ賛歌になってしまった。でもぼくにとって「センターを応援することは大好きなナナエさんを応援すること」なのだ。宣言したからにはこの“不義理続き”を早く断ち切らなくちゃ。

## 見送りの3振より空振りの3振 パートⅡ 石井ナナエ

〇月〇日

埼玉県立高校の入学試験の翌日、新聞と一緒に配られた入試問題にチャレンジした。ボケないように30年前から続けている習慣である。ところが「解けない。どうしてどうして？」中学時代は得意だった数学でさえ引かかる。80歳を超えたころ母が「なんだかだんだん馬鹿になってきているみたい」と言っていたが、私はまだ73歳。想いのほかボケが進んでいるのかしら。DHAサプリメントを頼まない。先月、髪分け目が気になって育毛剤を注文したばかり。エンゲル係数は下がったが、サプリメントにかかる費用が年々かさばっていく。

〇月〇日

FICECを始めて25年目に入った。自分たちの活動が国連の定めた国際目標SDGsにかなっているのか、スタッフ会議で振り返ってみた。驚いたことに17項目中8項目がSDGsに関連していることが分かった。「貧困をなくそう」では生活相談・日本語教室・フードバンクが適合していると思う。「質の高い

教育をみんなに」は日本語教室・子どもクラブが。「ジェンダー平等を実現しよう」は活動の大半を女性が担っていることで証明できる。「人や国の不平等をなくそう」と考え、多言語で情報を発信したり、翻訳・通訳・国際理解講座の実施に努めている。「住み続けられるまちづくり」は国際交流事業の実施や多言語情報の発信が当てはまる。「つくる責任・つかう責任」の実施に沿うよう10月からフードバンクを始めた。会員の皆様や近隣住民の皆様へ頂いた生活用品や衣料品の無料バザーは25年前から実施している。「平和と公正をすべての人に」はFICECのミッションであり、すべての活動が当てはまる。「パートナーシップで目標を達成しよう」は彩の国あんしんセーフティーネットや低額無料診療所・県や市役所・教育委員会・出入国管理局・学校など、地域のあらゆる機関と連携している。「気が付けばSDGs」FICECの活動を支えてくださっている大勢の皆様へ心から感謝したい。

## ECCホームティーチャー / FICECスタッフ 吉井ジュリエッタさん

28年前に結婚して来日しました。最初は日本語学校に入って勉強しました。日本語能力試験2級まで受け、1級を受ける前に子どもができました。幼稚園にたまたま英語が出来るお母さんがいて、彼女のおかげで友達が増え、みんなでランチしたりして日本語が上達しました。

日本に来た頃、車の免許を書き換えようと鴻巣の運転免許センターに行ったら、フィリピンの免許証を偽物と疑われて、人前でひどく泣いてしまいました。それから子どもが4歳の頃、一緒に出掛けた先で場所を間違えてドアを開けたら泥棒と疑われて、警察を呼ばれた時も悲しかったです。「子どもがいるのに泥棒するわけじゃないじゃない」と思いましたし、子どもも泣いている私を「マミー、どうしたの?」という顔でじっと見ていました。

日本に来てから一番嬉しかったことは子どもが持てたこと。実は子どもはなかなかできず、不妊治療に通っていました。夫は仕事が忙しかったので私1人で。外国人が病院に来るのは当時珍しかったと思う。面倒をちゃんとみようと子どもがある程度大きくなるまで仕事はしませんでした。

子どもが高学年の頃、英語を教え始め6年前からECCの先生になりました。今は30人ほど生徒がいます。幼稚園で教えていた子がECCに入会してくれて引き続き教えていますが、その子も小学4年生になりました。弟さんもこの間入会したので、当分辞められそうにないですね。(笑)お母さんたちも良い人ばかりで、英語の仕事でイヤな思いをしたことは一度もありません。

FICECは友人のエミリンさんに誘われて、電話通訳をしたのが最初です。忘れられないのは、入会した頃に県主催のNPO活動報告会でスピーカーとして出たのですが、色んな人から質問されて緊張で頭が真っ白になっていたら、一緒に行った息子がかわりに質問に答えてくれたんです。彼はFICECのさまざまなイベントと一緒に参加してくれました。

私が子育てのことで悩んでいた時、スタッフの矢澤さんが「何でも相談して」と言って話を聞いてくれました。日本の学校のことはよく分からなかったのですが色々相談できて、それがとても大きかった。親切な日本人もいっぱいいるんだと思った。だから友人が日本の悪口を言ったら「そんなことないよ」と言い返します。

最初の頃、市役所の人と一緒に来たフィリピン人のおばあちゃんの通訳をしたことがありました。彼女が泣きながら質問に答えていたので、可哀想に



思っていたけれど、後でウソを言っていたとわかりました。ショックを受けてエミリンさんに相談したら「他のスタッフからいっぱいアドバイスをもらった方がいいよ」と言われました。

FICECがシェルターをしていた時も、フィリピン人が入居していた時はエミリンさんと交代で週末に1回必ず様子を見に行きました。中にはあまりアドバイスを聞いてくれない人もいました。シェルターを出た途端に電話にも出てくれなくなったり、電話に出ても「あんた誰?」と言われてたりして。私、彼女の子どもの面倒も見ていたのに。でも石井さんが優しいじゃないですか。フィリピン人が困っているのをすごく助けてくれたりとか。すごいなあ、と思っています。

今は生活相談や同行通訳、取り出し授業をしています。ビサヤ語\*ができるのは私しかいないのでエミリンさんに「絶対に辞めないで!」と言われてます。仕事で疲れていてもFICECへ行ってみんなと話すのは楽しい。時間が取れず、会議もなかなか出られないけど、会議録は必ず読んでいます。これからも続けて行きたい。そしてコロナが終わったら早くフィリピンに里帰りしたいです。

フィリピン人は日本ですごく頑張っていますが、FICECのようなところでボランティアして、日本人と交流したらいいのと思う。日本語を勉強して日本になじんでもらいたいと思っています。

ビサヤ語\*...セブ島を中心とした地域で話されている言語

**募集中**

FICECでは、翻訳・通訳・生活相談に関わってくださるボランティアを募集しています。対象言語は英語・中国語・タガログ語・フランス語などです。お問い合わせ、お申し込みは電話かメールのフォームから連絡してください。よろしくお願ひします。



FICEC HPのメールフォーム



ふじみの国際交流センターのサポーターになってください

**マンスリーサポーター募集中!!**

在留外国人に多言語での情報提供や、生活相談、日本語学習の場が必要と思う方、在留外国人の孤立を防ぐための活動が必要と考えている方や企業のみならず、またボランティアをしたいけれど時間のない方はマンスリーサポーターとなってください。

一人でも多くの方々の支援をいただき、わたしたちの活動が今後も継続して行けるようになればと、切に願っております。ご理解ご支援をお待ちしています。

マンスリーサポートの流れ

①HPの申込フォーム、電話、FAX、ハガキ等でご連絡ください。

住所 〒356-0004

埼玉県ふじみ野市上福岡5-4-25

電話 049-256-4290  
または 049-269-6450  
FAX 049-256-4291  
ふじみの国際交流センター



マンスリーサポート係

- ②ご連絡いただいた方に、ゆうちょ銀行指定の自動払込申込書(3枚綴り)を送付します。
- ③ゆうちょ番号・寄付金額をご記入の上、押印して、返信用封筒にてご返信ください。
- ④毎月25日にゆうちょ銀行口座から自動引き落としとして対応させていただきます。

○スポットサポーター募集

郵便振替口座(口座番号:00110-0-369511、口座名:[特活]ふじみの国際交流センター)または、現金書留でお願いいたします。

広告

★ 上福岡に楽しい英語教室ができます!

**英語無料体験**

どなたでも参加できます

5月/ 1<sup>±</sup>・22<sup>±</sup>・29<sup>±</sup> 15:00~17:00  
上福岡駅西口ココネ奥サービスセンター2F

シールズ モンテッソーリ英語フォニックススクール

<http://seels.co.jp>

6月授業開始

対象…4歳~6歳、小・中・高校生・大人  
時間…月曜日~土曜日 10:00~16:00  
場所…ふじみ野市上福岡

○1回1時間、あなたの好きな時間を選んでください

入会金…10,000円  
受講料…週1回 8,800円/月  
週2回 13,200円/月  
週3回 17,160円/月

**6月中のキャンペーン**  
入会金  
受講料(1ヵ月)  
**50%OFF**

お問い合わせ 竹田アイザ シールズ(株) ふじみ野地区広報担当

**080-7213-7762**

○お店の広告を出しませんか?詳しくはFICECまでお問い合わせください。

FICECの活動をご支援ください  
**会員・賛助会員・寄付のご案内**

●活動を担う会員…正会員

正会員は、スタッフなどとして活動を担っていただく会員です。この会員は、総会などでの議決権をもちます。

年会費：個人1口3,000円、団体1口10,000円

●FICECを財政的に支える会員…賛助会員

賛助会員は、FICECを財政的に支えていただく会員です。総会等での議決権はありませんが、FICECのイベントなどのご案内や、機関誌をお送りいたします。

年会費：個人1口3,000円、団体1口10,000円

会員、賛助会員にはこの機関紙をお送りします

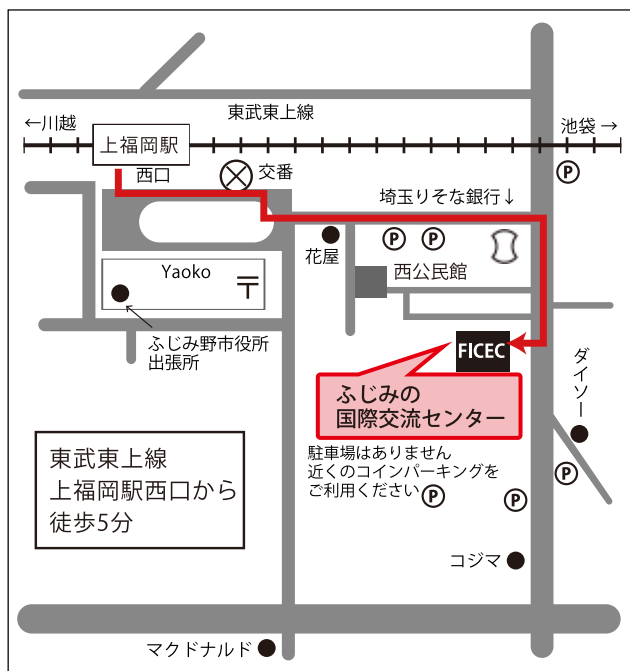
郵便振替口座：00110-0-369511  
 口座名：[特活]ふじみの国際交流センター

**外国人生活相談 無料**

月曜日～金曜日 10:00～16:00  
 電話：049-269-6450

困っている外国人の方がおられたら  
 FICECをご紹介します。

※コピー代など料金がかかる場合があります



埼玉県指定・認定特定非営利活動法人  
**ふじみの国際交流センター**  
 〒356-0004 埼玉県ふじみ野市上福岡5-4-25  
 TEL: 049-256-4290 FAX: 049-256-4291  
 生活相談専用電話 049-269-6450

**ご寄付をいただいた方々**  
 ご支援ありがとうございます

●2020年4月1日～2021年4月20日(敬称略)

〈団体〉

丘亜蘭、キハク堂、田村工務店、高齢者総合ケアセンターマザーアース、立正佼成会一食運動、話書きサークル「集」

〈個人〉

穴沢エミリン、新井順子、新井節、新井洋子、新井良司、荒田光男、安銀柱、安亭亭、生村康之典、石橋勝、伊藤愛、伊藤真弓、岩田愛子、岩田仁、上島直美、牛込亜紀子、内部利明、王、尾浦邦彦、大澤さよ、大場弥太郎、小川愛子、小熊千寿子、尾崎功、大室昭浩、小田良子、岡本直久、小原知子、片倉ミン、加藤由里子、狩野照乃、川井敏生、神田歩、神田順子、木村不二雄、ギャレット三宅万里子、樟山直美、久野弓枝、小池真理子、木場ひろみ、小林暁美、小林和恵、駒形一夫、蔡紹東、酒井有香、坂入智子、坂口久身江、佐藤義治、サプコタ、沢部涼子、ジェット、芝山喜巳子、島田道子、江科、ゾシスザン、高橋真梨子、橘賢、立麻肇子、田中功、近沢エルザ、チン・テイ・ヴァン、坪田幹男、寺村壁如、戸塚成子、富田恵子、内藤忍、仲野谷美恵、榎府憲太、南部英司、西澤、野沢弘子、萩原教生、長谷川正江、久光陽太、深沼マリ、藤巻則幸、星野秋梅、保坂佐紀恵、松本かよ、松本好正、三橋博之、村山光代、茂木久美子、森下理恵子、森田有美子、矢澤美紀、山畑博子、吉井ジュリエッタ、吉沢悦子、吉野高章、匿名

〈マンスリーサポーター〉

石井幸夫、石井ナナエ、遠藤慧子、太田政男、小林久美、権田貴久子、末吉智子、清家泰子、中嶋恵津子、中田好江、仲野公堅、中山浩子、野田恭三、野辺頼之、藤井みどり、八重樫紀久枝

※埼玉県指定・認定NPO法人ふじみの国際交流センターに寄付をしてくださった方は、税金の優遇を受けることができます。

ふじみの国際交流センターサービス案内		
外国人	国際理解教育	3,000円+交通費+事務費
ゲスト派遣	外国料理教室	5,000円(材料費別途)
講師派遣	多文化共生講座 ボランティア講座	20,000円+交通費 (活動運営のためご協力ください)
企画・運営	国際交流・国際理解に関するイベントや研修の企画・運営等	内容・予算に応じて相談
編集・出版	多言語による情報誌・ガイドブック・チラシなどの制作	
翻訳	婚姻関係、ビザ申請、履歴書	A4 2,000円/ページ
	その他文書	A4 3,000円/ページ
通訳	半日5,000円+交通費	
見学・研修(資料代として)		1,000円/人、日

**ボランティア活動に、ご参加ください**

ふじみの国際交流センターでは、日本語指導をはじめ、生活相談・外国籍市民との交流・手助けをするボランティアを募っています。ぜひ、電話またはホームページから、お気軽にご連絡ください。